

街道の駅からの小さな旅

てくてくてくてくてくてく

甲斐の国

—第2駅—小淵沢／甲斐小泉

八ヶ岳南麓は山が育む湧水の宝庫。

いつもの高原観光では通り過ぎていた、森の奥、高原の脇…

そこでは水の流れる音が当たり前のように聞こえてくる。

一つ一つ湧水にはどんな歴史があるのだろう。



小淵沢駅



甲斐小泉駅

01

大滝湧水
大滝神社

大滝神社境内に6つの水源がある湧水公園。現在もそのまま飲用ができる貴重な湧水の一つ。



02

八反歩堰遊歩道

湧水を利用した用水路に沿って整備された遊歩道。田園が広がるのどかな農村風景。南アルプスの峰と富士山を望める。



03

旧平田家住宅

江戸時代中期に建築された入り母屋造り。軒先が低く、土間部分が建物の6割を占めるなど、当時の様式が残る。



04

勘左衛門湧水

八ヶ岳リゾートアウトレットの敷地内にある湧水。一帯が勘左衛門氏の土地だったことに由来する名前。



05

井詰湧水
モミの木湧水

樹齢500年とされるモミの巨木の根元から湧き続ける水は、かつては旧小淵沢村の生活用水全てをまかなっていたといわれる。



06

三分一湧水

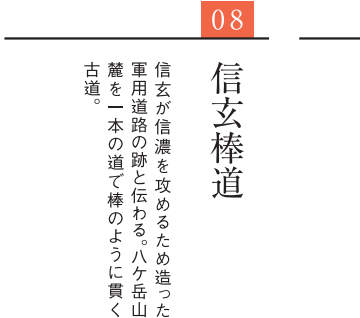
村落間の水争いを治めるため、湧水を3等分するための三角石柱が置かれた。起源は信玄の時代とも江戸時代ともいわれる。



07

そば処 三分一

八ヶ岳の湧水と100%地粉を使って打つそばが絶品。十割もりそば、温かい鴨南蛮、珍しいそばの刺し身が人気。



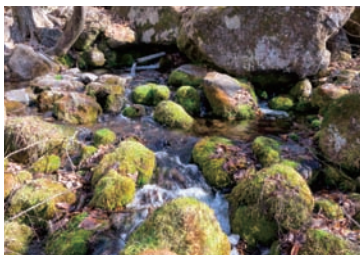
信玄棒道

信玄が信濃を攻めるため造った軍用道路の跡と伝わる。八ヶ岳山麓を一本の道で棒のように貫く古道。

09

女取湧水

コケむした岩間から湧水が流れ出し、やがて女取川となって流域を潤している。現在も北杜市長坂町の水道水源として守られている。



てくてく
歩きの
途中で...

大滝湧水公園で高菜を洗う方に、「素手で冷たくないですか?」と尋ねると「冬の湧水は温かいんだよ」と教えてくれました。湧水をくみに来ていた方は、「とてもおいしい水ですね。子育てのため自然豊かな山梨に移住してきました」と、親子一緒に朗らかな笑顔を見せてくれました。

湧水を訪ね歩いて 水と人との物語に思いをはせる

八ヶ岳南麓に点在する湧水を一つ一つ訪ね歩いて調べてきた山本茂弘さんの話によれば、湧水は120カ所。そのうち9割にはそれぞれに名前が付いていて、ほとんどの水源には「水神さん」の祠があるということだ。そんな場所の一つ、大滝湧水のほとり。湧水でコーヒーを入れ一息ついてから、山本さんは語った。

古来、人は水を求めて住み付き、水と共に生きてきた。コケむした岩間から水紋を描いてあふれる湧水を、ただ美しい自然として見ているだけではもったいない。その歴史的な背景も知ると、かけがえのない恵みとしての「水」のありがたさが身に染みて感じられる。それが八ヶ岳山麓の湧水を巡る際のポイントですよ、と。

大滝湧水の伝説

昔、越後守が大滝山での狩りの途中、山火事から一匹の蛇を助け出した。後日、越後守が水源を求めて大滝山で祈願をしていたところ、白衣の女性が現れ、自分は先日助けてもらった山の主だと名乗り、山の西北部に水源があると言って姿を消した。翌日、その場所を探すと本当に水源が見つかった。それが、この大滝湧水と伝わっている。また、旅僧が主人公となる別の伝説もある。





[湧水巡りの達人 山本茂弘さん・尚子さん夫妻]

建設省(現・国土交通省)で治水の仕事をしていた山本さん。八ヶ岳の自然に引かれて北杜市小淵沢町に移住。市内の図書館に眠っていた八ヶ岳周辺の湧水群をまとめた資料に興味を持ち、夫婦で湧水を巡り、古老からの聞き取り情報などを加え、「水の郷・八ヶ岳(湧水を求めて)」(平成26年1月)としてまとめ上げた。